千葉大学
21世紀COEプログラム
News Letter
The Center for the Creation and Dissemination of a New Japanese Nursing Science Incorporating Culturally Appropriate Care

日本文化型看護学の創出・国際発信拠点

実践知に基づく看護学の確立と展開

「ＣＯＥ研究４年目を迎えて」

拠点リーダー　千葉大学看護学部訪問看護学教授　石垣和子

今年度第１号のニュースレターをお送りします。

私たちのＣＯＥ拠点ももう５分の３が過ぎ、いよいよ今年は４年目、最終アウトカムを視野に入れる年になりました。日本の看護の特徴をいかに深く掘り下げるか、感覚的に捉えている看護実践をどのように科学的に根拠付けていくか、毎日のように議論しています。このニュースレターでは、このような研究の経過や成果を少しずつ発信していきます。いろいろな方々から感想やご意見をいただければ幸いです。

研究は、看護学研究科総動員体制で取り組まれており、教員やＣＯＥフェロー、それに大学院博士後期課程の院生は、７つのサブプロジェクトのいずれかに属して研究しています。研究メンバーは、日本文化に敏感になっており、最初の頃は際立って気づくことを探していましたが、最近では当たり前のことにこだわっています。なぜ当たり前と感じるのだろうと考え、哲学、文化人類学、社会学、心理学、そして医療に関係する学問などの学際的な領域への関心も高くなる一方です。痒いところに手を届かせることに心を砕く日本の看護はとてもデリケートで、看護職は専門家とボランティアの境界すれすれのところまで親身になろうとする傾向があるように思います。このあたりを描くには、学際的な学問の力を借りながら、しかし最終的には看護学者が統合しなくては解決できないのではないかと思っています。

拠点では、昨年５月の中間評価、８月の現地調査を機に、大学院生やフェローが活躍する姿が一層目立つようになりました。フェローは現在７名で、ちょうど油の乗り切った若手研究者です。看護の世界ではめったに研究に専念できる環境は得られないのが実情ですが、ここは例外です。また、博士後期課程の大学院生も多くが海外経験を積み、その経験をもとに研究を掘り下げています。日本文化型看護を扱った博士論文も多くなってきました。

この２月の千葉大学けやき会館での国際シンポジウムでは多くの意見が交わされ、それから示唆を得た研究者も大勢いました。これからも皆様と有意義な議論をするきっかけとなるような研究成果を沢山発表していくよう努力いたします。なお、３月にホームページを刷新しました。このニュースレター以外にそちらの方にも随時新しい情報をアップしていきます。ご興味を抱かれる方は、是非当拠点へお出かけくださるなり、メール等を下さるなりで、ご連絡いただければ幸いです。
今後ともご指導ご鞭撻どうぞよろしくお願い申し上げます。

vol. 1
2006.6

サブプロジェクトについて

昨年度の中間評価は、拠点の目的達成に向けて、実効性の高い研究組織のあり方を真剣に考え、研究組織を再編していく契機となりました。再編のポイントは以下の２点です。

○　当初計画を達成し、その成果を拠点内の他の関連SP（サブプロジェクト）の中で活用し、応用する段階にあるSPは解散する。

○　新たに着手が必要な研究領域についてSPを組織する。

これにより、「日本型看護効果測定ツール開発SP」を解散し、新SPとして、患者-看護者関係に大きな影響を及ぼす医療組織や看護チーム特性の解明に取り組む「医療組織文化SP」を組織しました。現在７つのSP（日本型対人援助関係、医療組織文化、日本型家族支援、日本型地域健康支援、身体機能調整、日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システムの開発、日本型倫理的推論の特徴と看護基礎教育）が活動しています。

拠点４年目にあたる今年度は、各SPの成果の実証と統合に向けて、実践研究と横断研究を強化し、本拠点のゴールを意識した取り組みを推進していきます。

サブプロジェクト横断研究について

ＣＯＥではこれまで７つのSPを中心に研究を進めてきましたが、今年度は各SPに共通するテーマを導き、横断研究をするグループが募集されました。以下の３件が横断研究として認められました。

○【研究テーマ】異文化生活体験者らのグループインタビューから得られる日本文化型看護学の特徴
【研究代表者】田所良之(SP-A)(他５名　SP-A, C, D)

○【研究テーマ】乳幼児期の子供をもつ家族への育児支援プログラムの開発―地域における包括的家族支援プログラムへの提言―
【研究代表者】前原邦江(SP-B)(他10名　SP-B, C)

○【研究テーマ】終末期がん患者を支援する看護モデル構築に関する検討
【研究代表者】眞嶋朋子(SP-B)(他９名　SP-B, C)

サブプロジェクトの活動紹介

◆SP-A「日本型対人援助関係」

看護は、看護の対象者の方々との人間関係を介在して、実践していきます。看護実践には、個別の状況において個別の対象者に健康や安寧状態を創り出していく過程があり、そこには“ケアすること”に関する唯一無二の現象が存在します。そのような特徴を有する実践を展開していく看護師は、個々の実践を通して経験知を蓄積し、専門職としての能力を高めていきます。我々は本ＣＯＥ拠点において、看護の実践知にみられる専門的な対人援助技術を、文化の視点から浮き彫りにし、検証していく研究に取り組みました。日本文化においては、人間関係に関する捉え方が西欧のものと異なる特徴があることが文献検討から明らかになっています。これまでに、病や障害を持つ人々への対人援助技術に関する研究成果を産出し、海外の研究者と意見交換してきました。“ケアすること”は、看護専門職に限らず、家族においても、友人･知人関係の中にも存在する現象です。日本文化型看護学の創出を通して、広く活用できる知見を産出していきたと思います。

◆SP-D「身体機能調整」活動報告

「身体性」に関する理解を深めるために文学部の高橋久一郎先生(哲学)をむかえ、5月31日と6月14日に、西洋哲学史のなかでの身体性の位置づけや、感覚をどのような概念として捉えるかを中心に講義いただき、看護における身体性に関する討議を行いました。

◆SP-F「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システムの開発」活動報告

平成16･17年度の成果をまとめた報告書を発行しました。システムの内容だけでなく計54回の会議録や原著論文等を収録し、開発過程を含めた包括的な理解が可能な報告書になっています。

ＣＯＥ主催のイベント

【特別講演】

「中国の看護と看護教育における文化的特徴」

◆**講師**：郑修霞先生　（北京大学看護学院学院長）

◆**日時**：2006年３月14日（火）

本講演では、まず1985年に再スタートした北京大学看護学院の変遷と概略が紹介され、中国初の３年制の修士課程が1992年にこの学院で誕生したことが皆に周知されました。そして、この学院の教育レベル、継続教育、主な研究領域、教育目標、カリキュラムの設定、教育方法の改革、地域看護の創設と研究状況について詳しく紹介してくださいました。最後に中国の看護教育における問題点と今後の展望についてお話いただきました。質疑においては、中国では精神看護学がまだ完全には確立されていないことについて意見交換があるなど、異文化の理解に対して非常に興味のある、内容の富んだ講演でした。

講演の様子（郑先生）

【特別ワークショップ】

「食にまつわる看護の文化比較」

◆**講師**：尚少梅先生（北京大学看護学院副学院長）
錢淑君先生　（宮崎県立看護大学助教授）
遠藤和子先生　　（東北福祉大学助教授）

◆**日時**：2006年３月14日（火）

本ワークショップでは、まず、尚先生が中国における儒教と道教に従った食事意識、薬食同源の弁証観、奇正互変の創造性思考、五味調和の境地と看護における食事指導などのような歴史のある飲食文化を紹介してくださいました。そして、銭先生が台湾における糖尿病患者の食事への看護援助を、遠藤先生が日本における食事文化を地域性を踏まえながら面白く話してくださいました。最後に、お互いの更なるディスカッションを通して、両国の食に関する文化的な共通性と相違性が感じられました。

ワークショップの様子

ＣＯＥのＨＰがリニューアル

平成18年度４月より、本拠点ＣＯＥホームページがリニューアルしました。デザインが変わり読みやすくなっただけでなく、アンケートのフォームを取り入れたり、簡単に様々な情報を掲載することができるようになりました。今年度の目標は、最終年度に向けてＣＯＥの成果を発信し、それに対する様々な角度からの評価をえることです。掲示板やブログ等を利用して関心のあるテーマでディスカッションをしたり、意見を出し合ったりすることもできます。ホームページの活用方法についてアイディアのある方は、ご意見をお寄せ下さい。

URL：www.chiba-u-21coe.jp /index.html

ＣＯＥフェローの活動

＜研究論文＞

・前原邦江：産褥期の母親役割獲得過程を促進する看護に関する研究―母子相互作用に焦点をあてた看護介入の効果― ,母性衛生,47(1),43-51,2006.

＜学会発表＞

◆第８回日本母性看護学会学術集会(福井県)６月17-18日

・前原邦江、森恵美：産後１～３か月の母親への育児支援プログラムの実施と評価－“ふれあい”を通して母子相互作用を促す看護介入－

＜助 成 金＞

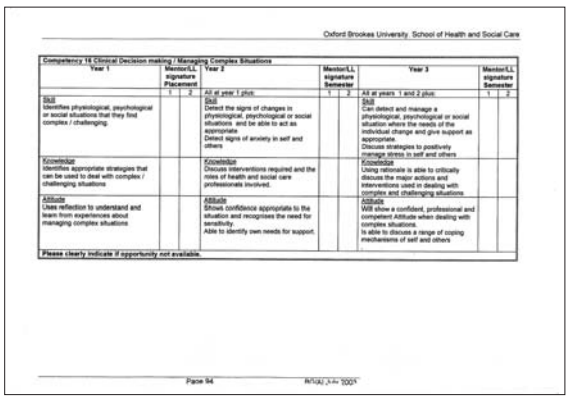
◆科学研究費助成金 若手研究(B) 平成18～20年度
研究代表者：前原邦江
テーマ：出産後の母子と家族の育児を支援する継続看護プログラムの開発と実践

＜海外報告＞

「英国ＩＰＥの中での看護倫理教育」

ＣＯＥフェロー　吉田千文

看護倫理研究の中で、私は人々の尊厳ある生を支えるためには、医療専門職間の連携・協働は必須という思いを強くしていた。英国で国をあげて取り組んでいる専門職種間連携教育（Interprofessional education：IPE）では看護倫理をどのように教育しているのか、実情を知ることを目的に宮崎美砂子教授、酒井郁子助教授に同行し、2006年３月８日～３月14日レスター大学、オックスフォード･ブルックス大学(OBU)を訪問した。OBU健康･ソーシャルケア学部は、卒業時までに修得すべき27の能力を核としたカリキュラムをもつ。Clinical decision making/ Managing complex situationsなど看護倫理に関連する８つの能力は３年間を通して実習と講義･演習が平行する中で13科目で教授される。学生が１人１冊持つポートフォーリオには、各セメスター毎に学生とメンター両者の評価が記録され、能力修得に向けた学習･指導の道しるべとなっている。(詳細は2006年５月10日に看護学部IPE報告会にて報告した。)


Oxford Brookes University. School of Health and Social Care

Competency 16 Clinical Decision making / Managing Complex Situations

Year 1	Mentor/L.L signature Placement 1	2	Year 2	Mentor/L.L signature Semester 1	2	Year 3	Mentor/L.L signature Semester 1	2
			All at year 1 plus:			All at years 1 and 2 plus:		
Skill Identifies physiological, psychological or social situations that they find complex / challenging.			Skill Detect the signs of changes in physiological, psychological or social situations and be able to act as appropriate Detect signs of anxiety in self and others			Skill Can detect and manage a physiological, psychological or social situation where the needs of the individual change and give support as appropriate Discuss strategies to positively manage stress in self and others		
Knowledge Identifies appropriate strategies that can be used to deal with complex / challenging situations			Knowledge Discuss interventions required and the roles of health and social care professionals involved.			Knowledge Using rationale is able to critically discuss the major actions and interventions used in dealing with complex and challenging situations		
Attitude Uses reflection to understand and learn from experiences about managing complex situations			Attitude Shows confidence appropriate to the situation and recognises the need for sensitivity Able to identify own needs for support.			Attitude Will show a confident, professional and competent Attitude when dealing with complex situations Is able to discuss a range of coping mechanisms of self and others		

Please clearly indicate if opportunity not available.

Page 94　RCGJ/JAN 2005

ポートフォーリオの例

ＣＯＥフェロー室からの拠点発信

ＣＯＥフェロー室では、看護学に限らず医療倫理学、医療文化人類学などに関するさまざまな本、資料を収集、公開しています。また、他の拠点の報告書なども在庫しています。興味をもたれた方は2週間を限度に借り出すことができますので、お気軽にご利用ください。

＜フェローからのお勧め本＞

◆手元にあると便利なキーワード集（文化人類学、医療人類学）　ＣＯＥフェロー　川添裕子

山下晋司・船曳建夫編
『文化人類学キーワード』
(有斐閣KEYWORD SERIES、1997年、ISBN：4641058636、1,700円)

・文化人類学への切り口になるキーワードを集めたもの。

・例えばフィールドワーク、文化を書く、病気と死、文化の概念、文化相対主義、家族……

連　　絡　　先

千葉大学21世紀ＣＯＥプログラム「日本文化型看護学の創出･国際発信拠点」
〒260-8672　千葉市中央区亥鼻1-8-1　千葉大学看護学部　ＣＯＥ研究室
Tel：043-222-7171（代表　内線5859）Fax：043-223-7330
URL：http://www.chiba-u-21coe.jp/index.html